

令和4(2022)年度 年間授業計画					
教科・科目		公民 倫理		2 単位	
対象学年・組		3 年生		必履修	
教科書 (出版社)		高校倫理 新訂版(実教出版)		副教材等	ウィニングコンパス (とうほう)
学習目標		人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者とともに生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。			
学期		予定 時数	単元	指導内容	具体的な指導目標
1	前半	12	青年期の課題と自己形成	①青年期の意義 ②青年期の課題	・自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解する。 ・豊かな自己形成に向けて、他者とともに生きる自己の生き方について考える。 ・自己の生き方が現代の倫理的課題と結びついていることをとらえる。
	後半	12	人間としての自覚	①ギリシャの思想 ②キリスト教 ③イスラーム ④仏教 ⑤中国思想 ⑥芸術と人生	・人生における哲学、宗教、芸術の持つ意義などについて理解する。 ・人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索することを通して、人間としての在り方生き方について考えを深める。
2	前半	14	日本人としての自覚	①古代日本人の思想 ②日本の仏教思想 ③近世日本の思想 ④西洋思想の受容と展開	・日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解する。 ・国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深める。
	後半	14	現代に生きる人間の倫理	①人間の尊厳 ②科学・技術と人間 ③民主社会と自由の実現 ④社会と個人 ⑤人間への新たな問い ⑥社会参加と幸福	・人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付ける。 ・他者とともに生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深める。
3		18	現代の諸課題と倫理	①生命の倫理 ②環境の倫理 ③家族の課題 ④地域社会の課題 ⑤高度情報化社会の課題 ⑥文化と宗教の課題 ⑦国際平和と人類の福祉の課題	・生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理的課題を自己の課題とつなげて探究する活動を通して、論理的思考力や表現力を身に付ける。 ・現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深める。
評価の観点 (評価基準)		・基礎的・基本的な事項を理解している。 ・発表等で自分の考えを自分の言葉で人に伝えることが出来ている。			
評価の方法		・定期考査を中心に評価をする。 ・授業態度、課題等提出物への取組みも評価する。			
学習の手引き		・青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めていく。そのため、先哲の考え方を単に知識として学ぶことを目指すのではなく、生徒個々が自らの人生観、世界観ないし価値観を形成するよう、自己とのかかわりにおいてとらえ、自ら思索することを目指していく。			
授業担当者		海洲 安希央			